
風の記憶 ~アキ~

岡倉 勝巳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風の記憶 ～アキ～

【コード】

N0796B

【作者名】

岡倉 勝巳

【あらすじ】

淡い恋の終わりの話。超短編です。(ヒトの関係も道路のように、どこかで誰かとつながっています。)

なんて綺麗な髪なんだろう。まるで光っているみたい。
惜しみなく注がれる太陽の光。空は雲の欠片すらなく、どこまでも
高い。

その下を、二人の自転車は蜻蛉みたいにまっすぐ翔る。
身体が空気と混ざって、後ろに尾を引いてる。

もうこれ以上ムリってくらい、力いっぱいペダルを踏み込む。

速い、速い、息ができない。

何を言ってるの？聞こえないよ！

初夏の匂い、周りの青々とした水田の上を、風が渡っていくのが見
えた。

ゴメンね ゴメンね

嬉しい報告のはずなのに、アキはずっと謝り続けた。

夕暮れの近づく喫茶店の、狭すぎるくらい小さなテーブルを挟んで、
アキは顔を上げもしない。

どうして謝るの？とっても嬉しいことだよ？おめでとうアキ！

そう言ってあげたいのに、咽の奥が焦げ付いてしまったようにくっ
ついて、声が出ない。

お祝いが言えないのは、咽が渴いているからだ。

「オメデトウ。先越されちゃったな」

コップの水を一気飲みしてなんとかしぼり出したお祝いの言葉は、
私の口先からポトンと落ちて、アキのところまでは届かなかった。

アキが秀則さんと結婚するってことは、実は明美から先に聞いてたんだ。

「美和は一番仲良しだから、てつきり知ってると思ってた、アキってば美和のことびっくりさせようと思ってるかなあ、私言っちゃって、悪いことしちゃったかも」なんて、明美困ってたっけ。でも、アキは私に言い出せないでいたんだよね。

秀則さんをアキに紹介したのは、私だった。ほんと、バカみたい。秀則さんはアキみたいな所謂「お嫁さんにしたいタイプ」が好きだって知ってて、それでも私は二人を引き合わせてしまった。アキの別れたばかりの元彼が、秀則さんと似たタイプだったってことも、知っていたよ。

その時から、こうなることはわかっていたんだと思う。いや、むしろそうなるって欲しいと願っていた。もう終わりにしたいって、そんな気持ちもあったのかもしれない。だから、これは私の望んだ結果だ。

秀則さんと付き合い始めたときも、アキは今日みたいに謝っていた。秀則さんから告白されたの、私、付き合い合ってもいい？なんて、なんでそんなこと私に聞くの？

私は秀則さんとは何もないんだからって、何度言っても、彼女は信じて疑わなかった。

私が秀則さんのことを好きだったこと。

うつむきっぱなしのアキの頬の上、彼女の長い睫毛の影が悲しげに揺れるのを、私はずっと見ていた。

喫茶店の窓の外には夕闇が迫り、窓の内側には私の干からびた笑顔が張り付く。

生暖かい風がまとわり付いて、身体と空気の境目がわからなくなってくる。

6月、薄暗くなるのに気温が下がらない。
自転車の速度を少しあげても、湿度の高いじつとりとした風をかき回すだけで、汗がひくことはなかった。

結婚式は、もう終わっただろう。今にも降り出しそうな重い梅雨空が、この時間まで堪えてくれたことが嬉しかった。

結婚式、行けなくてごめんね、どうしても外せない仕事があるんだ、なんて言い訳、アキは黙って聞いていた。
だって、やっぱり見てらんないよ。二人の幸せな瞬間、私の、恋のおわり。

好きだった。その気持ちを、どうしていいかわからなかった。

私は自転車のスピードを上げた。

あのころみたいに、思いつきりペダルを踏み込む。

何も無かった田舎町、ただ奇跡みたいに輝く水田と、前には一本道。あてもなく、競争したっけ。

アキの髪が、光を吸い込んで、発光しているみたい。

キラキラキラキラ、到底手なんか届かない。

速い、速い、息ができない。

アキ、大好きだったよ。結婚おめでとう！

何を言ってるの？聞こえないよ！

初夏の匂い、クラクションの響くビルの間を、風が渡っていくのが
見えた気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0796b/>

風の記憶 ~アキ~

2010年10月11日02時21分発行